

Re-Inventing Japan Project

大学の世界展開力強化事業

Inter-university Exchange Program toward Medical and Dental Networking
in Southeast Asia

東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム

Dental Training Program in Indonesia 2016

August 27 – September 4, 2016



UNIVERSITAS INDONESIA



東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

目次

ページ

I	研修風景 Pictures	1
II	参加学生募集要項 Application Guide for the Program	3
III	日程・参加者 Schedule and Participants	5
IV	学生によるレポート（日本語・英語） Student Reports	8
V	スライド Slides	24

1. 研修風景 Pictures



インドネシア大学学生とのディスカッション PBL class



スキルスラボ skills lab



ジャカルタ日本人幼稚園での健康教育



II 参加学生募集要項

Application Guide for the Program

平成 28 年 4 月 4 日

平成 28 年度短期海外歯科研修プログラムへの参加学生募集について

事業推進責任者 田上 順次

本学は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援～」に採択され、平成 24 年度から主に学生交流を中心に事業を展開しています。本学が実施する「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」は、タイ、インドネシア、ベトナム、オーストラリアの大学と連携してコンソーシアムを形成し、我が国が有する先端的な医療・歯科医療機器や材料、最新の医療・歯科医療技術等を基盤とした東南アジアにおける大学間交流、ネットワーク形成を推進し、我が国の医歯学領域の世界展開力を強化する取組みです。

本学は、本事業の取組みの一環として歯学科及び口腔保健学科の学生が海外で研修や学生交流を行うことを支援することとし、平成 28 年度については、下記の要領で参加学生を募集します。

記

1. 派遣先： 1)シーナカリンウィロート大学歯学部(タイ)
2)インドネシア大学歯学部(インドネシア)
3)ホーチミン医科薬科大学歯学部(ベトナム)

派遣先大学	派遣期間(予定)	対象学生	募集人数
シーナカリンウィロート大学 (タイ)	平成 28 年 8 月 20 日(土) ～8 月 28 日(日) (9 日間)	歯学科 3～4 年生	6 名程度
インドネシア大学 (インドネシア)	平成 28 年 8 月 27 日(土) ～9 月 4 日(日) (9 日間)	歯学科 3～5 年生 口腔保健学科 (口腔保健衛生学専攻)4 年	合計 14 名程度
ホーチミン医科薬科大学 (ベトナム)	平成 28 年 8 月 27 日(土) ～9 月 4 日(日) (9 日間)	歯学科 3～5 年生	4 名程度

2. 研修内容： 各大学附属病院の見学・講義への参加・文化交流・学生交流等
3. 支援内容： 往復航空券
4. 奨学金： 前年度の成績評価係数(GPA)が 2.3 以上の場合、独立行政法人日本学生支援機構(以下 JASSO)から 7 万円の奨学金が支給される。(JASSO 規程により日本国籍を有する者、または日本への永住が許可されている者のみ対象)
 ※ GPA2.3 未満の場合、または外国人学生には奨学金は支給されないが、研修への参加は可能。
 ※ 前年度の GPA については、各自歯学系教務係(歯科棟南 2 階)に確認すること。

5. 選考方法:

書類選考、及び面接試験(日本語／英語)を行う。**TOEFL ITP テストの結果を参考にする。**

※ 面接試験の日時、場所等は申請書受付後、メールにて通知する。

面接予定日: 平成 28 年 4 月 25 日(月)～28 日(木)

6. 申込先・締切日:

申請書(様式1)を本学 HP(<http://www.tmd.ac.jp/grad/ohp/sekaitenkai/files/160408asiaguidelines.pdf>)からダウンロードし、必要事項を入力のうえメールにて ossu@ml.tmd.ac.jp まで提出してください。

なお、提出の際は、件名を「【大学の世界展開力強化事業】平成 28 年度申請書」としてください。

締 切:平成 28 年 4 月 20 日(水)

7. 事前研修:

派遣前に海外派遣英語準備コース(BRIDgE)の受講が必要です。日程等の詳細は面接終了後、合格者に通知します。(コースの概要はグローバルキャリア支援事務室の HP で確認できます。)

(<http://www.tmdu-global.jp/>)

※事前研修の出席及び最終試験の成績によっては、派遣が取り消される場合があります。

8. 留意事項:

- 1) 派遣前に本学が加入する危機管理サービス”OSSMA”及び海外旅行保険に加入すること(加入費用は個人負担)。
- 2) 派遣終了後は、各種研修報告書を提出し、アンケート調査へ回答すること。
- 3) 歯学科学生は 10 月 18 日(火)に開催される国際シンポジウムで成果を発表すること。口腔保健学科学生も別途、報告会で発表す予定がある。

9. 単位認定:

海外歯科研修プログラムに参加し、一定の条件を満たす学生には以下の単位を認定します。

- ・ 歯 学 科 学 生: 自由選択科目「デンタルエクスターンシップ」1 単位
- ・ 口腔保健衛生学専攻学生: 歯科衛生臨床・臨地応用実習時間に組み入れます。

問い合わせ先

統合国際機構国際交流課

菅原、古屋(5号館3階 内線 7013)

柴田、杜(1号館4階 内線 4941)

Ⅲ. 日程・参加者 Schedule and Participants

1. 研修期間

2016年8月27日（土）～9月4日（日）（8泊9日）

2. 研修目的

学生の国際性をはぐくみ、国際的にリーダーシップのとれる自立型の若手研究教育者・医療者を目指すための動機付けを行うことが本事業の目的である。さらに本プログラムでは、以下の目的がある。

- ・ インドネシアの歯科保健制度や口腔保健状況を理解する
（病院見学、開業医見学、コミュニティヘルスセンター訪問、PBL）。
- ・ 日本の歯科保健制度や口腔保健状況について、インドネシアの学生に対し説明することで、理解を深める（PBL、講義）。
- ・ インドネシアの文化について理解する（異文化理解）。
- ・ 英語によるコミュニケーション能力を向上させる。

3. 予定訪問先

- ・ インドネシア大学 Depok キャンパス
- ・ ジャカルタ市内開業医
- ・ ジャカルタ日本人学校幼稚部
- ・ 保健センター 等

インドネシア大学担当教員 Dr. Melissa Adiatman

4. 参加学生

No	名前	性別	事務処理番号	分野名・学年
1	キクチ ミカ 菊池 仁香	F	1613	歯学科2年
2	サカニワ エリ 坂庭 愛理	F	1520	歯学科3年
3	アラカワ レイミ 荒川 玲美	F	1501	歯学科3年
4	ホリケ アヤネ 堀家 彩音	F	1537	歯学科3年
5	カドワキ ダイキ 門脇 大樹	M	1352	歯学科4年
6	ヤギ コウタロウ 矢木 鴻太郎	M	1346	歯学科4年
7	タカヤナギハルカ 高柳 遼	M	1324	歯学科5年
8	キムラ トモマサ 木村 友昌	M	1317	歯学科5年
9	イトウ ナナミ 伊藤 七海	F	1404	口腔保健学科4年
10	タカツナ ユキコ 高綱 裕紀子	F	教育メディア開発学分野 修士1年	

計 10 名

5. 同行教員

安田昌代（口腔保健学科）、竹原祥子（統合国際機構、健康推進歯学）

6. 国内連絡先

東京医科歯科大学統合国際機構国際交流掛

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 担当：柴田、延原課長

tel: 03-5803-4941 fax: 03-5803-0366

e-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp

7. 宿泊先

ザ マルゴ ホテル (The Margo Hotel)

Jl. Margonda Raya No. 358, デポック, インドネシア

Phone: +6221 - 29 515 888 Fax : +6221 - 29 515 889

Email: info@themargohotel.com

朝食付き二人部屋 907, 500 インドネシアルピア

7泊8日で6,352,500 ルピア/2人（1人当たりおよそ30000円程度）

8. スケジュール

8/27（土）	08:30:成田空港第2ターミナル3階南ウイングQカウンター前集合 10:50 東京/成田空港第2ターミナル JL 725 16:35 ジャカルタ/スカルノ・ハッタ空港着
8/28（日）	異文化体験
8/29（月）	PBL（補綴、予防歯科） Opening ceremony インドネシア大学の紹介 東京医科歯科大学の教育についてのプレゼン キャンパスツアー
8/30（火）	PBL（修復）、講義（法歯学、歯科放射線） 異文化体験（教員は下見のため日本人学校訪問）
8/31（水）	スキルスラボ（口腔外科） 講義（パブリックヘルス、インドネシアの保健制度） PBL
9/1（木）	PBL（補綴） 学生活動および地域での活動紹介
9/2（金）	ジャカルタ日本人学校幼稚部での健康教育 文化交流会 Closing ceremony
9/3（土）	異文化体験 21:55 ジャカルタ/スカルノ・ハッタ空港 JL 726
9/4（日）	07:25 東京/成田空港第2ターミナル着 解散

9. 幼稚園児への歯科保健指導

日時：2016年9月2日（金）9 - 11時

対象：ジャカルタ日本人学校幼稚部4、5歳児

4歳児 3クラス （1クラスが30名）

5歳児 3クラス （1クラスが36-37名）

時間：約30分（健康教育と歯磨き指導）

学生は3グループに分かれて、健康教育を2回行う。

配布物：子供用歯ブラシ、保護者向けリーフレット

午前9時～	準備
午前9時30分～10時00分	年少組（4歳児クラス）計90名 健康教育と歯磨き指導（場所は各教室） くま組：グループ1 りす組：グループ2 うさぎ組：グループ3
午前10時10分～10時40分	年長組（5歳児クラス）計109名 健康教育と歯磨き指導（場所は各教室） ぞう組：グループ1 らいおん組：グループ2 きりん組：グループ3

Ⅳ. 学生によるレポート Student Reports (Japanese)

菊池仁香 (D2)

インドネシア大学で、PBL・スキルスラボに参加した。補綴、疫学、修復、法歯学、歯科放射線について英語でインドネシア大学の学生とPBLを行った。スキルスラボ（口腔外科）では、実際にインドネシアで行われている方法で顎間固定を行った。また、パブリックヘルス・インドネシアの保険制度に関する講義を受けた。異文化体験ではインドネシア大学の学生と現地視察に行った。そこで、インドネシアの文化、伝統、歴史などを学ぶことができた。ジャカルタ日本人学校幼稚部での健康教育では、インドネシアの日本人学校でスクリーンシアターを使って食事前の手洗い、うがいは大切であるということ、歯磨きは大切であるということを説明した後、少人数グループに分かれて歯磨き指導を行った。文化交流会では、インドネシア大学の方に日本の伝統的な文化についてと、日本の歯科教育について、プレゼン形式で発表しました。

英語でのPBLは私にとってとても貴重な経験だった。日本の中学、高校の英語の授業ではリスニング、リーディングが主であり、スピーキングに力を入れて学習したことがなかった中で、PBLの中でインドネシア大学の方の意見、先生の説明が理解はできて、自分の意見を英語で言うということは自分が思っていたよりもできていなかったように感じる。また、英文法は日本で学んできたが、日常会話に必要な表現などは知識として自分の中にあるフレーズがとても少なく、不十分であることを強く感じた。インドネシア大学の学生の方々の英語の能力がとても高く、とても良い刺激を受けた。日本の英語教育と他の国の英語教育の差も感じた。また、スキルスラボではインドネシアで実際に行われている顎間固定を実習しました。インドネシアは交通事故が多く、顎間固定が必要な患者が多いということにインドネシアの歯科の特徴を感じた。

日本で当たり前だと思っていたことで、他の国の方から見ると当たり前ではないことの多さに驚いた。文化、教育、生活など日本とは異なる、日本で生活しているだけでは想像もできないようなことがたくさんあった。中でも最も驚いたのは、インドネシアの交通についてだ。インドネシアでは、車、オートバイでの通勤、通学が当たり前で、朝、夕方の通勤、通学時間には日本では信じられないくらい交通渋滞が発生する。大学生も大多数は車、オートバイを運転して大学に来ていて、バス、電車を使っている学生はとても少ないとのことだった。よって、交通事故もとても多いので、歯科も交通事故による患者が多いとのことだった。

私は今まで日本の歯科医療しか見ていなかったが、今回インドネシアの歯科医療について学んで、歯科医療に関する視野が広がったように感じる。自分が見えている領域はとても狭いということに気づけたので、今後進路を決めるときはなるべく広い視野で考えるようにしたいと感じた。そして、やはり自分の英語力不足を強く感じた。自分の英語力は世界では

全く通用しないということ、自分の今の英語の勉強では絶対に不十分であることを認識した。今後また留学することがあるか、将来的に海外の方と接する必要があるのか、まだなにもわからないが、将来的に英語のスキルが必要になった時に自分の選択肢が減らないようにもっと英語を勉強しておこうと今回の留学から思った。

坂庭 愛理

このインドネシア研修で私がとても心に残ったことは、インドネシア大学の学生は自主的に意欲的に学んでいること、インドネシア大学の学生の親切さ、英語の重要性である。

5日間 TBL に参加してみると、10 人程のグループで 1 人 1 人が発言していた。1 回目に症例の確認をした後、何を学ばないといけないかを皆で考え意見を出し合っていた。そして 2 回目の授業の時までに役割分担をし、それぞれパワーポイントを作り、自分の箇所に責任を持ち皆に説明していた。私が今まで TMDU で行っていた PBL とは皆の意欲や、やり込み具合が違った。私も勉強に対する姿勢を改めなければならぬと痛感した。

インドネシア大学の学生は毎日授業があり沢山の課題があるにも関わらず、授業が終わり次第私たちと異文化体験を行ってくれたり、街を案内してくれたり、一緒に夕飯を食べてくれたり、私が熱を出した時は一緒に病院まで付き添ってくれた。インドネシアの人は親切な人が多いという話をすると、そういう文化だと答えていた。そこに日本と通じるものがあると思い、始めは異国の学生と仲良くなれるのか不安ではあったが、気さくな学生が多くすぐに仲良くなることが出来た。彼らの親切なおもてなしを忘れず、10 月に日本に来てもらう時は相応のおもてなしをしたい。

最後にインドネシアで過ごしている時毎日思っていたことは、自身の英語の出来なさが申し訳ない思いだった。せっかく仲良くなれて気さくに話せるようになったから、もっと自分からどんどん話をして沢山話したいという思いはあるのに、理解と表現に手間取ってしまった。まだ 5 割程しか理解出来ておらず、折角相手が冗談を言っても上手く笑えず、また返すことが出来なかった。

初めて海外の人たちと仲良くなる事が出来、私自身の狭い視野が広がった。しかしもっと広げるためには英語でコミュニケーションを取れるようになることだと自覚した。インドネシア交換留学から帰ってきた今から英語の上達に勤しみたいと思う。また他学年の方々と知り合い仲良くなることが出来たのもまた、沢山のことを学ぶことが出来た。このインドネシア大学との交換留学に参加して本当に良かったと思っている。参加するか迷っていた時に後押しをしてくれた方、サポートして下さった先生方、一緒に行った方々、インドネシア大学の方々のおかげで今まで経験した事のない充実した 9 日間を過ごすことが出来た。この機会に感謝しながら英語をとにかく上達させなければならないと思う。

荒川玲美 (D3)

今回の派遣プログラムでは、インドネシア大学の学生さんと一緒にインドネシア大学の授業に参加をし、また、インドネシアの文化を体験してきました。インドネシア大学の授業では、PBL、スキルスラボ、ミニレクチャーの主に3つに参加しました。

PBL は12人ほどの学生で1つの症例についてキーワード、疑問点などを話し合い、それをさらにブレインストームで分類ごとに仕分けするという作業を1人1人がそれぞれ意見を持って意欲的に参加している様子が見られました。日本では小学校から大学まで、先生の講義を聞いてメモをとるというスタイルの授業だったので、生徒主体で話し合いが進んでいく授業スタイルに、実際に参加してみて非常に驚きました。また、発表資料の作成もスムーズで、プレゼンテーションも慣れており、プレゼンテーション能力が長けているように見受けられました。

スキルスラボでは、顎間固定のワイヤーの施し方を教わりました。インドネシアではバイクが非常に多く、信号がなく、渋滞もしているためバイク衝突の事故が多く、そのため顎間固定の手術が多いと聞きました。インドネシアの社会状況を歯科の分野で反映されていたのが興味深かったです。

レクチャーでは、インドネシアでは、国全体として貧民層に対して、歯科の問題はあまり重要視されておらず、それよりも食料問題や全身の健康といったことに最優先順位をつけていることを学びました。そのため、歯が痛くても歯が痛いとは認識できるのは2%ほどしかおらず、歯磨きの習慣も1日約1.12回と、習慣づいていないことが分かりました。日本では予防歯科学に力を入れていること、歯科が全身の健康に作用することなどは国民全体に広まっている知識という点に驚いていました。インドネシアでは貧富の差からか歯科教育の知識にも差があるところが問題であると私は考えました。日本にいただけでは見えなかった、歯科状況と社会状況の関係を意識できるようになりました。考えて見ると、日本は世界から見ても超高齢社会であるという社会状況から、8020運動という歯科状況がうまれたのだなと納得しました。

インドネシアの文化体験では、インドネシアの伝統的な踊り、染め物、楽器演奏、服装を実際に体験しました。特に、踊りを教えてもらったのですが、皆で踊るおどりで言葉なしでも楽しく交流できたのが良い経験になりました。

堀家 彩音 (D3)

今回、8月27日から9月4日までの8日間、インドネシア大学と東京医科歯科大学との大学間交流プログラムに参加させていただきました。10名の本学の学生と2名の先生と共にインドネシアに行きました。8月27日にインドネシアの空港に到着して、インドネシア大学の学生の方に出迎えていただきました。今回のプログラムでは、8月29日から9月2日までの5日間はインドネシア大学でのPBLの授業に参加しました。また多くの異文化体験もさせていただきました。そして9月2日の金曜日の午前中には日本人学校に行き、幼

稚園の2クラスに対して歯科健康教育をしました。たくさんのことを経験させていただき、とても充実したプログラムでした。

その中でも最もこのプログラムに参加してよかったと思う理由としては、同じく歯学科で学び、将来良い歯科医師になるという共通の目標を持つインドネシア大学の学生の方に出会うことができたことです。インドネシア滞在中、ほとんどの時間を彼らと過ごし、日本やインドネシアの文化のこと、お互いの学生生活についてやどのように物事に対して考えているかなど多くのことについて一緒に話しました。彼らと話すことにより自分の視野を広げることができました。普段日本人同士で話すことでは得られないこのような貴重な経験に恵まれとても幸せに思います。彼らは私たちに対して本当によくしてくれて、彼らの優しさに心から感謝しています。彼らなしではこんなに心に残る研修にならなかったと思います。10月に彼らが日本に来た際には、きちんとおもてなしをして、彼らに日本に来てよかったと思ってもらえるように頑張りたいと思います。

インドネシア大学では補綴歯科分野、保存歯科分野、公衆衛生のPBLの授業に参加しました。本学では、インドネシア大学とは違い、授業は座学が主体であるのでPBL形式の授業には慣れておらず難しく感じました。当たり前のようにこなしているインドネシア大学の学生の方は本当にすごいと思いました。PBL形式の授業であると、自分から主体的に勉強する時間が増えるため、各科目に対する知識をより深めることができると感じました。

異文化体験では、インドネシアの正装であるバティックの柄を描きました。バティックについては

インドネシアに来てから知りましたが、柄や色がどれも異なり、とても美しいと思いました。またインドネシアの伝統音楽であるガマランにも皆で挑戦しました。さまざまな種類の楽器があり皆で音を

合わせることができたのが良かったです。

日本人学校での歯科健康教育では劇を通して日々の歯磨きの重要性について幼稚園の子どもに伝えました。その後に歯磨きをするときに気を付けるべきことを実際に一緒に歯磨きをしながら確認しました。生き生きと楽しそうに歯磨きをしている子供たちの姿をみてとても嬉しかったです。

このような貴重な経験をする機会をいただけたことを心より感謝しています。このプログラムで得たことを生かして、グローバルな視点を持った歯科医師になりたいと思います。

門脇大樹 (D4)

今回の9日間インドネシア研修において、インドネシア大学の学生とのラフティングなどのアクティビティに始まり、PBLの授業への参加、マネキンによる顎間固定の実習、また、現地の日本人学校における歯磨き指導、異文化交流など様々なプログラムに参加させていただきました。これらのプログラムを通して、インドネシアの大学生は目の前の物事に対

して積極的であり、また楽しもうとしていることに気付きました。日本の講義中心の授業に対して、ほとんどの授業は PBL であり、みな積極的に発言していました。その授業にも参加させていただいたのですが、私たちのために PBL の授業をインドネシア語ではなく、英語で行ってくれました。私は、その英語での議論についていくのがやっとで、その時にまた、英語力の差を痛感しました。

私は、インドネシアのことについて知っていることはほぼありませんでした。ただ持っていたイメージとしては、“発展途上国“ということだけでした。歯科医療、教育の現場に関しても何か得ることはあるのだろうかと思っていましたが、上記の通り、私たちよりも勉学に対して意欲的であり、何事に対しても積極的な姿勢にはとても刺激を受けました。これからますます進んでいくであろう歯科医療界のグローバル化において最も大切なことであろうと実感しました。

去年のベトナムにおける研修に引き続き、こういった海外での研修プログラムに参加することで予想もしない経験ができること、また、学習意欲がさまざまな面で刺激されることは、日本における勉強においてより一層努力しなくてはという思いが駆り立てられます。このような素晴らしいプログラムの企画、またサポートしてくれた全ての方々に感謝いたします。

矢木 鴻太郎 (D4)

今回のインドネシア研修で自分が感銘を受けたことは大きく二つあります。

一つはインドネシア大学の学生の勉学への意識です。そしてただ勉強だけでなく人間性の豊さもまた驚かされることが多々ありました。PBL ではそれほど日本と大きくシステムの差があるようには感じなかったが、10 人ほどの生徒が積極的に参加し発言を行っていたし、役割もはたから見ているはつきりとみてとれました。そして次回の PBL パワが発表に向けて話し合う姿は自分たちにはないものだとはとハッとさせられました。そして自分が注目していたひとの目の輝きというのが純粹に勉強を楽しんでいると思われました。そういったところが人間性の豊かさにつながっているのだと思いましたし、今回の研修でこちらが恐縮してしまうほどに親切にしてくれたインドネシア人のやさしさにつながっているのだと感じました。毎日の授業の中、それが大変というそぶりを見せず、町中の案内をしてくれたり、お昼ごはん、夕食にまで付き合ってくれたのは、ほんのちょっとしたことと、普段の自分なら思うが、慣れない海外でそのようなやさしさは本当に助かりましたし、自然と見せられるやさしさの大切さをプログラム以前に学ばされました。

もう一つはやはり英語力と歯科知識内容の取得です。インドネシアの人と比べて自分の意見を英語で表現することが物足りない、表現力不足で簡易な表現に変換せざるを得ないことが多かったです。

そして勉強不足かそもそものベースである歯科知識が足りていないと思わされることが多く、これからの勉強量は大切になってくると思われました。

日本にいてはどうしても今回のプログラムのような刺激ある体験ができる機会は少ないので積極的に参加してみたことは良かったし、こういう機会があれば定期的にすすんで参加したいと思えるような充実した研修となったと感想をもちました。

高柳遼 (D5)

私が交換プログラムを希望した理由は、海外旅行では学ぶ事のできない、海外の歯科事情を知るためと、外国語(英語)を学ぶためでした。私は大学入学時、海外留学は全く興味がなく、英語を学ぶモチベーションは受験時代で終わっていました。また、海外へ行った事がなく、大学在学中に海外へ行く予定もありませんでした。しかし、私の友人がこのプログラムで海外へ赴き、素晴らしい経験を積み、また価値観が変わったと言いました。私は大学進学に併せて上京し、国内でも文化の違いや言語の違いを経験し、価値観が変わりました。よって、海外へ行き、多くの違いや驚きを見つけ、自分の価値観が変わる可能性のあるとても良い機会でもありました。

まず、海外の歯科事情についてですがさて、私たちは一般の歯科医院には訪れず、活動は基本的にインドネシア大学の歯学部内に留まりました。また、病院見学も無かったため、実際のインドネシアの歯科治療現場は見ませんでした。その代わりに、インドネシア大学歯学部の学生と行動を共にし、授業や実習、学校見学をしました。インドネシア大学は1年生の頃からずっとPBLのみの授業を行っており、学生は皆積極的な授業参加であった。PBLの内容を見ると、学生が自ら日本の大学の講義に近いレベルの内容を調べていて、共有していたため非常に学習効果は高いと思ったが、実際は学生間でのモチベーションの差が感じ取られ、学生の優秀さは学習形態ではなく学生自身の意欲に依存するという事がよく理解できた。また、実習室のマネキンは基本的に日本のものと変わらないが、マネキンの顔貌や歯の大きさ、歯列弓の形が大きく異なっている事は、面白い発見でした。

次に、一番心配であった英語ですが、受験時代で培った英語力に加え、大学の授業やBRIDgEで学んだ事を活用しました。結論から言うと、会話は出来るが、深い話ができずもどかしいでした。日常会話や、ホテルの方と話す際はその状況によっても話す内容が特定でき、自分が思ったよりスムーズに会話することができました。しかし、日本に居る時ほど深い話は出来ず、「〇〇したことある」「〇〇へは行った事ない」といった内容が多かった。勿論、口数少なく、その場の盛り上がりでお腹を抱えて笑い合う事も多くあった。また、喋りを補う際に、ボディランゲージを利用することは極めて重要でした。ただし、聞き取りが苦手なようで、2、3度聞き返す事も多かったです。これらより、今回の初めての海外経験は、会話自体は日に日にできるようになりましたが、より発展した会話やくだけた会話、そして英語の聞き取りが問題点でした。対策としてはあまり挙げられませんが、英語に触れる時間を増やそうと考えました。具体的に行っているのは、聞けなかった洋楽に手を出したり、インドネシアで仲良くなった友人と連絡を取っています。そして何より実戦経験です。積極的に海外へ赴けるプログラムに参加していきたいと考えが変わりました。

最後に、海外と日本での違いですが、訪れたのがたった8日間で、かつ日本人に合ったプログラムであったため、あまり多くのカルチャーショックは受けませんでした。一番衝撃を受けたのはトイレトペーパーが設置されていないことでした。インドネシアの学生は、トイレ用のシャワーを使わないでどうやって洗うのかという発想のようでした。反対に、食事やショッピングセンター、コンビニやお店などは日本と同じ、または似ていると思った事が多かったです。そして一番は、笑いのツボや会話をしていてつい笑ってしまう内容は、万国共通であるとよく理解できました。また、インドネシアの方々は本当に穏やかで優しく、他人想いで、心が綺麗な人が多かったです。とても協力的で献身的なインドネシアの方々のおかげで、なんとか乗り切る事ができたと言うのが正直な感想です。

良い意味で自分が想定する程価値観が激変することはありませんでしたが、非常に素敵な経験を積む事ができました。またの機会があったら、是非とも海外へ積極的に行ってみたいという考えが、今回の交換交流で一番変わったことでした。

木村 友昌 (D5)

今回のインドネシアへの短期留学プログラムはインドネシア大学を訪れたが、現地の歯科医療の実態、歯学部以外の学部の様子、またインドネシア国内の各地を訪れその歴史や自然に大いに触れることができた、非常に実りの多い研修となった。以下、歯科医療、インドネシアの現状、歴史的観点について述べていきたいと思う。

まず、歯科医療についてである。今回の研修では、インドネシア大学の歯学部内の各施設の見学、インドネシア大学の学生とのPBLによる議論、ジャカルタにある日本人幼稚園において口腔衛生指導を行うことができた。

インドネシア大学は総合大学であり、その一区画に歯学部の校舎が建っている。医科歯科大学と同様に、学生実習の為のファントムが揃ったスキルスラボも設置されており、顎間固定の実習を行うことができた。

インドネシア大学の学生とのPBLでは、補綴治療についての議論と公衆衛生、疫学についての議論を行うことができた。議論の中で、インドネシアの小児はう蝕有病率が高く、ブラッシング方法が確立しておらず、ブラッシング時間も1分弱と日本に比べ短いことが分かった。

日本人幼稚園では、アンパンマンの劇により歯磨きと手洗いうがいの大切さを園児に伝えた。覚えたセリフを園児たちの様子を伺いながら緩急をつけて演じる必要があり、難しくもありいい経験となった。各世代毎に応じた接し方の重要性も改めて感じた。

インドネシア訪問は今回が初めてであった。ジャカルタ、デポックのそれぞれの地を散策することができた。ジャカルタでは、高層ビルにホテル施設、商業施設がかなり発達しており当初のイメージとの差に驚き感動した。しかしこのような街中にも物乞いをする人々が歩道脇にみられ、行き交う人々の様子からは貧富の差が伺うことができた。交通面では、非常に多くのバイクが行き交う点が印象に残った。

現地の学生には、インドネシアの博物館やオランダの建築様式が残る広場を案内してもらうことができた。

日本を離れ、インドネシアの歯科医療の実態や学生の様子、日本とは異なるインドネシアのしきたりや建築様式等を知ったことで、今後日本で歯科医療に携わる際の重要なヒントを得ることができ貴重な海外研修となった。

高綱裕紀子 (M1)

9日間の研修中に、インドネシア大学でのPBL授業の参加、マネキンによる実習、現地の日本人学校幼稚園での健康教育、異文化交流を行いました。向こうの大学の授業は、日本の講義を受ける能動的な授業とは異なり、PBLにて自分で問題・課題を見つけ自学自習するアクティブラーニングでした。臨床基礎実習では、日本とは方法が異なる顎間固定を丁寧に教えていただき、インドネシアの歯科について実技も踏まえ学習することが出来ました。

研修前は、インドネシアの文化・歯科情勢などまったく知らなかったですが、現地で実際に研修し、向こうの学生との交流でとても深く知ることが出来ました。インドネシアには歯科衛生士という職種がないため、向こうの学生にとって非常に興味深かったようで、自身の職種について、何ができるのか、今後どうしていきたいか、などを客観的に考え直し、ディスカッションできた素晴らしい機会となりました。

また、現地の日本人学校の幼稚園での健康教育も、とても刺激的でした。大学時代に同じ4,5歳児に健康教育をした経験がありましたが、今回の対象者は前回よりも元気で、内容を相手に理解してもらうために、話し方や惹きつけ方を学習することが出来ました。

初めての東南アジアでしたが、日本と文化が違い、かなり最初は困惑することが多かったです。現地の学生がとても親切で、母国語ではない英語を駆使し、とても深い交流が出来ました。常に現地の学生も含めて集団で行動していたため、少し気を抜いてしまった場面が個人的にあったかと振り返りますが、日本人の学生同士でホテル周辺の施設に買出しにいった際は、店員が英語が話せずコミュニケーションが取れなかったことや、あまり治安が良くなさそうな場でかなり不安になりましたが、現地の言葉も覚えなければまずいという学習意欲に繋がったと考えます。

海外での生活は、日本にいただけではできない様々な経験ができるため、自分の視野を広げるためにも積極的に行きたいと強く感じました。自分の将来としても歯科衛生教育がよりよくなるようにしたいという教育への思いにプラス、海外と繋がれる研究や教育もしたいという気持ちが増した研修でした。昨年は、アメリカでの研修、今回は東南アジアでの研修でしたが、どちらもそれぞれ日本の歯科情勢とはまったく異なり、それぞれに日本の方が優れていると思われる点があるため、何らかの形で海外に発信して日本の歯科を伝えていく必要があると考えます。従って、経験を活かしてより日本が発信していかなければならないことを研究に取り込んでいけたらと思っております。

今回の研修にあたりサポートしてくださったすべての方々に、感謝しております。本当に

ありがとうございました。

Student Reports (English)

Mika Kikuchi (D2)

In the University of Indonesia, participated in the PBL · Sukirusurabo. Prosthesis, went epidemiology, repair, law dentistry, the students and PBL of the University of Indonesia in English for dental radiation. In Sukirusurabo (oral surgery), it was actually between the jaw fixed in a way that has been done in Indonesia. In addition, we received a lecture on insurance system of public health and Indonesia. In the cross-cultural experience I went to the students and site visits of the University of Indonesia. So, we were able to learn Indonesian culture, tradition, history and the like. In the health education in Jakarta Japanese school kindergarten, pre-dinner handwashing using a screen theater in Indonesia of the Japanese school, the fact that the gargle is important, after explaining that the toothpaste is important, small was toothpaste guidance is divided into groups. In the cultural exchange meeting, as for the traditional culture of Japan towards the University of Indonesia, for dental education in Japan, announced in a presentation format.

PBL in English was a very valuable experience for me. Japanese junior high school, listening in English class in high school, reading is the main, because I had never learned to focus on speaking, opinion in the direction of the University of Indonesia in the PBL, can teacher the description of understanding also, I feel like that say their opinions in English was not able than he had thought. In addition, English law has been studying in Japan, such as the necessary expression in everyday conversation is very little phrase that is in your own as knowledge, I felt strongly that it is insufficient. Very high English ability of the people of the students of the University of Indonesia, received a very good stimulus. The difference between the English education of English education and other countries of Japan was also felt. In addition, in the Sukirusurabo I was training a fixed between the jaw, which is actually done in Indonesia. Indonesia traffic accident a lot, felt the features of the Indonesian dentistry to the fact that there are many patients in need of intermaxillary fixation.

By I thought that it is commonplace in Japan, I was surprised to multi-of may not be obvious when viewed from the side of the other countries. Culture, education, different from Japan, such as life, just living in Japan there was a lot of things that can not be imagined. Among the most surprised of it is, but for Indonesia of traffic. In Indonesia, the car, commuting in the motorcycle, school is a natural, morning, evening commute, to

go to school time is a traffic jam of incredible in Japan occurs. College students also the majority have come to the University of driving a car, motorcycle, bus, students are using the train was that of a very few. Therefore, since the traffic accident is also very large, dentistry was also that of the patient is often caused by traffic accidents. was not only seen in Japan of dental care up to now, to learn this time for Indonesia of dental care, it feels as widespread view about dentistry. Because you notice that the area that I have seen is very narrow, it felt like to be thinking as much as possible wide field of view when determining the course in the future. And, it was also felt strongly their English shortage. The fact that my English is not all-class in the world, recognized that their own by now of English study is absolutely insufficient. Whether there is possible to also study the future, whether there is a need that is in contact with people in the future overseas, but still do not know anything, more so that his choice does not decrease when the has become necessary in the future to English skills I thought from the current study aims to keep studying English.

Eri Sakaniwa (D3)

This in Indonesia training that I remained in the very heart, independently studying in the students of Indonesia University, those student of kindness and the importance of English.

First, when we try to participate in the 5 days TBL, every student spoke own their opinion about some topics in a group of about 10 people to confirm the cases for the first time. They had pool their opinion considered in all or do I need what you learn. In second time class, each them of the roles to make a PowerPoint had been explained to everyone responsible for their own place. It was different that I carried out PBL in TMDU until now. I was aware of and must be changed its attitude to the study.

Second, despite their class and homework every day, the students of Indonesia University went with us to do cross-cultural experience, guided us around the city, ate dinner together and when I had a fever had me escorted to the hospital together. When I talked them that the Indonesian people were very kind, they had answered that kind of Indonesian culture. Though I had anxiety of becoming friends with foreign students before I participated in that program. I could become friends quickly. Do not forget their gracious hospitality, I want to be the hospitality of accordingly when they get to come to Japan in October.

Third, the thing that I thought every day was the lack of ability to talk in English. I became good friends accustomed to friendly to speak so I wanted to talk more and more

from myself. But it took time for me to understand their saying and express thing I wanted to say. I was sorry for not being good at returning to their jokes.

I could make friends with people overseas and I spread my own narrow field of view. In order to spread more it was important that I become good communication with other countries people in English. I think I want to improve my English from now. I was able to learn a lot of things. I have thought that was really good to participate in the exchange program. I want to send saying thank you for people who related in the program. I have to improve my English for this grateful opportunity.

Reimi Arakawa (D3)

I took part in the classes of University of Indonesia with local students and experienced Indonesian culture. The class of University of Indonesia is mainly PBL, skills lab, and lecture.

In PBL, about 12 students discussed the case, and then they presentation on the power point. Each student has own their opinion, and discussion was active. They are used to presentation. On the other hand, in Japan, teachers teach, and students just listen passively. So, I was surprised at the style of PBL classes and stimulated.

In skills lab, I was taught the intermaxillary fixation. In Indonesia, there are so many motorcycles on the road and there is no traffic lights, and moreover, there is so heavy traffic jam. Therefore, there are many accidents of motorcycles, so oral surgeons often operate the intermaxillary fixation. I was interested in the dentistry reflecting the social situation.

In the lecture, I learned that in Indonesia, dentistry is not important problems for the poor, rather, food problems, and general health problems are high priority. Only 2% people can recognize tooth pain when tooth is painful. And the average time of tooth brushing is 1.12 per a day. They don't have a habit of tooth brushing. I consider that dental education is not enough due to poor.

In Indonesian culture experience, I experienced the traditional dance, music performance, and Indonesian foods. I enjoyed them without language barrier.

Ayane Horike (D3)

In this exchange program, I visited the University of Indonesia which is located in Depok, and studied there for five days. Ten TMDU students and two teachers went to Indonesia this time. We arrived at the airport on October 27th and we were greeted by students from the University of Indonesia. Throughout the eight days I stayed at Indonesia, I was

able to experience many new things, such as attending PBL classes in the university, experiencing Indonesian culture, and promoting teeth brushing towards kindergarten children. Among all these experiences, I think the best experience I had was that I was able to meet students from the university of Indonesia. It was very nice to meet dental students who are studying outside of Japan since we both have the same goal to become good dentists. We stayed together for most of the time and had conversation on Indonesia and Japan's culture, about our school, and about our thoughts. By talking with them, I was able to broaden my perspectives because usually I don't have the chance to talk with foreign students. I truly appreciate their kindness and hope that we can spend a fruitful time together on October.

From October 29th to September 2nd, we participated in some of the PBL classes such as Prosthodontic dentistry, conservative dentistry, and public health. Since TMDU's education is based on lectures, I felt the difference from TMDU and felt it hard. However, I thought the PBL system would encourage students to study more and students can deepen their knowledge on each subjects because they have to learn by themselves.

As for experiencing the culture of Indonesia, we had an opportunity to make a clothing called Batik. The designs and colors of Batik are all different and beautiful. We also tried to play a musical instrument called Gamaran. The sound and harmony of Gamaran was very nice.

On September 2nd, we went to the Japanese school in a place called Bintaro to promote teeth brushing towards kindergarten students. This was my first time to do this and I enjoyed it.

I appreciate TMDU and UI for providing students with opportunities to participate in this exchange program. I would like to make the most of this program and become a dentist with global perspectives.

Daiki Kadowaki (D4)

In this Dental Training Program, we conduct rafting as an activity, taking part in PBL in UI, intermaxillary fixation training, tooth brushing instruction at kindergarten for Japanese in Indonesia, and many cultural exchanges. I noticed that students in UI are all active and try to enjoy anything. A form of class in UI are mostly PBL. I took part in their PBL class, but the most I could do was just following the class and conversation. They used English in PBL class for us and I just keenly realize my lack of English ability.

I didn't know about Indonesia well. I thought whether I could gain a great deal or not. However, I was stimulated by student's active attitude for everything they face. I think

this attitude is the most important things in global dental world.

These dental training in foreign country gives me so many unexpected experiences and stimulates my desire to study harder. I appreciate for all stuffs for this program.

Yagi Kotaro (D4)

This program was so wonderful because of Indonesia University students .To begin with,the reason why I want to go Indonesia University is three points. First, I can always get English skill. I can learn native English pronounce and speed and I can try to use soon. Second, I hope to achieve independence and autonomy through study abroad in a different place away from my parent. I had not spent living alone, so I think it is chance to shape myself. And finally, my wide field of vision and mind will be better through the communication with native student . These three points will be big one step to grant my dream securing a multinational company. Therefore, I wish to study abroad.

Studying these abroad may seem very challenging, but my advantage is that I have already acquired experience in studying overseas ; NZ.

During these short term programs, I had to communicate with non-Japanese people a lot. I came to enjoy situations in which people of varied backgrounds are thrown together, and gained confidence in my ability to adapt to foreign countries.

Furthermore I'm interested in studying peculiar trends I noticed in highly developed countries like Japan: The tendency of most university students to refuse to deviate from the typical route of finding a "good university" followed by a generic job in a "good hospital". Due to this tendency, going to university has become the norm. Thus, with the exception of highly successful cases, experts without high educational background are fated to be underestimated.

Haruka Takayanagi (D5)

My reason to go abroad is to know foreign dental situation and to learn English, which I can't learn only by trips. Until a little ago, I would not like to go abroad. However I changed my idea because my friends said experiences in foreign countries were so excellent. I felt changing my value only in Japan when I came to Tokyo. Therefore I determined to go abroad through this program to learn a lot of things and to change my values.

First, I tell about the dental situation in Indonesia. Unfortunately, we could not go to see dental hospitals or clinics. Instead of it, we always studied with students of University of Indonesia (UI). Students of UI study only by PBL from the first grade, so they study the class very actively. To see the PBL classes, I thought it was very effective

to study by PBL because they study by themselves and share the information between students. However I noticed there were the gap of motivation between students. So I concluded excellence of studying depended on not studying methods but on the motivation. Also it was interesting to find difference of mannequin such as the face, size of teeth and shape of dental arch.

Second, I could speak English but could not talk deeply and very well. Almost communications were for example "I have ever done ○○" and "I have never been to ○○". Also it was not good for me to hear English. Therefore I increase the time to use English as a step. Specifically I contact to friends of UI by SNS, and hear the English songs now. After all going abroad is most effective to learn English, so I would like to join other program to go abroad.

Finally, I couldn't feel "culture shocks" this time. But I was only surprised there are seldom toilet papers in the toilet! I had to use my left hand for the first time. Conversely, there were a lot of things similar or same to Japan. Also I noticed Indonesia people were very kind, calm, thoughtful and pure. Thanks to their cooperation, I could pass this program. So I would like to return them "Japanese O・MO・TE・NA・SHI" this October and go to Indonesia again someday. Also I would like to go abroad actively if I have the chance.

Tomomasa Kimura (D5)

I visited Indonesia University in Inter-university Exchange Program toward Medical and Dental

Networking for Indonesia. We were able to experience education of Indonesia university and teach oral health care to kindergarteners and touch on the history of Indonesia. It was a great program. I will mention dental care of Indonesia and current situation of Indonesia.

Dental care:

In this program, I was able to visit faculty of dentistry of Indonesia University and discuss about local dental situation with students of Indonesia University,

In the university, there were phantoms in Skills labo as many as in TMDU. In Skills labo, we were able to do inter-maxillary fixation.

In PBL with students of the University of Indonesia, we were able to carry out discussion about prosthetic treatment and epidemiology of public health. During the discussion, I learned that Indonesian children have a high caries prevalence and there

have not been established brushing method in Indonesia and Indonesian people brush their mouth in a minutes. I was very surprised.

In the Japanese kindergarten at Jakarta, we told kindergarteners the importance of hand washing, gargle, and brushing by play of Anpanman. I felt it is important to contact in accordance with each generation.

Current situation of Indonesia:

It was my first time to visit for Indonesia. I was able to visit Jakarta and Depok. In Jakarta, high-rise buildings and hotel facilities, commercial facilities have been considerably developed. But people who beg can be seen on the sidewalk side. From the appearance of coming and going people, I was able to see the gap between the rich and the poor.

I was guided the historic places and attractions of Indonesia by local students.

Leaving Japan, I could see the actual situation of dentistry of Indonesia and I was aware of the difference of tradition and architect between Japan and Indonesia. It became a valuable overseas training and I was glad to go to Indonesia.

Yukiko Takatsuna (M1)

I have two reasons why I want to participate in this program. First, I would like to develop new learning materials as my research based on this experiences. Secondly, I would like to know culture of Indonesia to understand background of patients from other countries.

I had studied for 5 days at University of Indonesia. It is located in Depok. During my stay, I studied a lot of things. I can't see clinical sites, but I took many classes, for example, PBL classes (Prosthodontic, Dental Public Health and Preventive Dentistry, Conservative Dentistry), Dental Radiology class, Dental Public Health and Health Insurance class, and so on. I also practiced trainings. Inter-maxillary fixation is very different from Japan. It was so exciting for me because I didn't do this training in Japan.

In Japan, we usually attend lectures. However, students at University of Indonesia take only PBL classes. I think PBL system is more effective for students than only attending. Students can find what they don't understand and widen their knowledge by themselves.

I did dental education for kindergarten students. I really enjoyed health education with them.

I studied not only dental topics but also Indonesian culture, food and dental situation through interaction. Indonesian students were so kind, so they told me about many things. Our native language is not English, but we could talk each other enthusiastically.

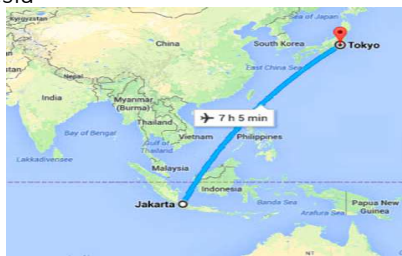
In conclusion, this experiences gave me some hints for my research. I would like to appreciate to supporter of me. I would like to become a dental hygienist who have wide vision.



Outline

- 🐘 About Indonesia
- 🐘 Classes Of UI
- 🐘 Oral Health Education
- 🐘 Culture Experience

About Indonesia



- 7 hours flight
- 2-hour time difference

About Indonesia



- 3 time zones
- More than 17000 islands

Classes of University of Indonesia

- Skills Lab
- Lecture
- PBL





Inter-maxillary Fixation

- Many people who ride on motorbike without wearing helmet
→ many **traffic accident** is happened
- a technique used to **stabilize a fractured jaw**
- The teeth are **wired** together



Lecture

- Dental Radiology
- Forensic Dentistry
- Dental Public Health and Health insurance System in Indonesia

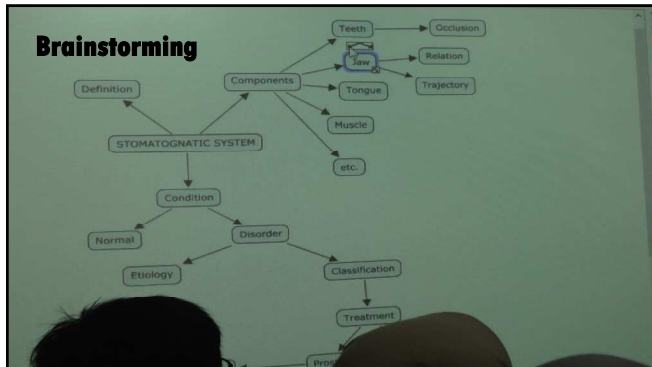


The process of PBL

1. Read the Scenario (case study)
2. Clarify unfamiliar terms
3. Define problems
4. Brainstorm possible hypothesis or explanation

Information gathering

Present what you learned about in class



About
Oral Health education





We had wonderful time!!

We learned Indonesia culture and made friendship between UI and TMDU deeper because of various activities.







Thank you for your kind
attention